

5. 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

☆ 授業科目、授業の方法及び年間に授業の計画に関すること

幼稚園教諭免許・保育士資格取得のための学び

○ 授業科目体系の考え方

授業科目体系は、学園の建学の精神（「敬和・温順・質実」と「自主創造」）を受けて定められた学則第 1 条「本学は、学校教育法の定めるところにより、深く専門の学芸を教授し、職業または實際生活に必要な能力を育成するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、品性のある豊かな人間性を涵養することを目的とする。」及び同条 2 項に定められた学科の人材養成の目的「こども学科は、生涯学習社会における教育者、保育者として必要な能力を高めることにより、教育・福祉の振興に寄与する人材を育成する。」との教育目標の系列を受けて、こども学科で定められた次の教育目標の考えを盛り込んで構築されている。

教育目標

本学の建学の精神に掲げる「敬和、温順、質実」の品性と、「自主創造」の気風の養成に則り、時代の変化に対応する教育に関する理解を深め、専門的知識と技術を修得させ、幼稚園教諭及び保育士として期待される資質、能力の育成に努める。

(1) 幼稚園教諭として培う資質、能力

幼稚園教諭は、幼児を理解し、活動の場面に応じた適切な指導を行う力を持つことが重要であり、家庭との連携を十分に図りつつ、教育を展開する力などが求められている。具体的には、幼児を内面から理解し、総合的に指導する力、保育を構想する力、実践力、得意分野の育成、教員集団の一員としての協働性、特別な教育的配慮を要する子どもを指導する力、小学校や保育所との連携を推進する力、保護者及び地域社会との関係を構築する力などの育成に努める。

(2) 保育士として培う資質、能力

保育士は、養護と教育が一体となった乳幼児の保育及び保護者に対する保育に関する指導を行うとともに、地域の子育て支援の中心的存在として、乳幼児の福祉を積極的に増進する役割が求められている。

具体的には、乳幼児の最善の利益を考える保育観、心身ともに健康、安全で情緒的安定を保障できる力、発達の理解と育ちを支える保育技術、保護者に対する子育て支援力、地域や関係機関と連携できる力、乳幼児への大きな影響力を認識し研鑽に励む態度などの育成に努める。

(こども学科教育指導計画より抜粋)

上記の教育目標を受けて、それを達成するための授業科目体系を構想し、授業科目は、

学則第26条に別表1「授業科目表」として示し、授業科目の大分野を、基礎科目・教養科目・教科科目・教職科目・保育士科目の5分野に区分している。

また、別の視点から授業科目体系の考え方を整理すれば、次の四点からも方向付けられているといえる。

ア 幼稚園教諭第二種免許の取得に必要な授業科目として文部科学省が示す専門等の科目及び単位数

イ 保育士資格の取得に必要な授業科目として厚生労働省が示す専門等の科目及び単位数

ウ 短期大学士としてふさわしい「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、品性のあ
る豊かな人間性を涵養すること」に資する科目及び単位数

エ 「こども学」と関連がある「音楽・表現」、「心理」、「スポーツ」、「栄養・食物」、「こ
どもビジネス」の分野で学生の得意・関心分野を伸ばすための科目群を設置し（フィール
ド科目として、教養科目・教科科目・教職科目・保育士科目の分野に分散して設置）、知識・
技術にすぐれた力を持たせることで「自信」、「チカラ」を育成するための科目及び単位数